かずさの博物誌

ユリカモメ

～代表的な冬のカモメ～

文・写真／成田篤彦

2018.1.20

春の矢那川河口、中型のカモメが頭を水に入れ、「バシャバシャ」と羽を川に叩き付けています。

約二〇〇羽はいます。

イモを洗うような込み合いです。

赤黒い頭、くちばしと脚は赤みを帯びた黒色。夏羽のユリカモメです。

「こんなにたくさんいるのか！」と驚きました。

なかには、冬羽の白い羽の頭に夏羽の黒羽が、ごま塩のように混じっているのもいます。

普段見ている越冬中のユリカモメは、白い百合の花のように真っ白で、くちばしと脚が真っ赤で、とても美しい。夏羽のユリカモメは頭が赤黒く、別の種のように思えてしまいます。

上総でもこの海鳥は代表的なカモメです。

しばらく観察していると数羽の群れが北方から次々と集まってきます。彼らはひとしきり、水浴びをして、汚れを落とし、羽の手入れをした後、中州に上がり、眼を閉じて眠り始めました。

この付近では矢那川河口にユリカモメたちが集まり、水浴び・休息をしています。

前から、ユリカモメが盤洲平野の上空を昼過ぎに数羽の群れで、南に飛んでいる姿をしばしば見ていました。

どこに行くのか不思議に思っていたのですが、これでわかりました。

脚が立ち、淡水で水浴びができ、休息できる、外敵が来れない中州がある場所は、この付近では矢那川河口なのでしょう。

木更津市文京公民館の近くの矢那川で、クサフグが落ちていたこともありました。これも水浴びをするために集まってきたユリカモメが落としたのかもしれません。

彼らはここで休息してから、安全な東京湾の海上のねぐらに向かうのでしょう。これがこの付近のユリカモメの日課だと思いました。

上総で夏羽を見る期間は春の一時だけです。

それにしても今まで減多に見られなかった、多くの夏羽のユリカモメが見られて幸運でした。

▶休息するユリカモメ
＝二〇一七年四月十六日　木更津市

▶水浴びをする夏羽のユリカモメ
＝二〇一七年四月十六日　木更津市

▲飛行する夏羽のユリカモメ　左は冬羽
＝2017年４月16日　木更津市

◀冬羽のユリカモメ　水田
＝二〇一三年四月六日　木更津市

memo

ユリカモメ（百合鷗）

チドリ目カモメ科

全長四十センチメートル、アジア～ヨーロッパに分布。ロシア・カムチャッカ半島などで繁殖。日本全国で越冬。海辺だけでなく、内陸部の河川や沼などでも見られる。

ユリカモメの古名は「都鳥」で万葉集や伊勢物語で馴染みのある種。在原業平の『伊勢物語』の一節、「名にし負はばいざ言問わん都鳥わが思ふ人はありやなしやと」と京に残した恋人をしのんだ和歌でユリカモメが有名になった。

参考文献

『千葉県の自然誌本編7』

◎写真・文章の無断転載を禁じます。